

くらしにやさしい街 … 志木、よりよい環境を未来に残すために

エコシティ志木通信

9月1日号 (No. 59・ホントに暑かった号)

2010
*
9月

NPO法人エコシティ志木

代表理事 天田 眞

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>



写真：天田眞

何となく懐かしさのような
雰囲気か……
散歩コースに加えよう



勝手にレッドデータ of 志木 (45)

前河岸跡

志木市役所の脇の道をさくら記念病院方面に行くと、病院の少し手前の右側に広場と水路があります。このあたりが実は、新河岸川舟運の河岸場のひとつであった前河岸跡と新河岸川の旧河道です。

以前は、この辺りが新河岸川の蛇行の先端でしたが、昭和初期の改修工事による川の直線化で切り離され、現在は道になってしまいました。この道を地図で見ると水谷橋となっているのが川の名残ですね。新河岸川の旧河道は水路としてまだ活用されていますので、ぜひ一度散策してみてください。

(伊藤智明)

5/30
(日)

新河岸川ぶらり散歩 (4)

新狭山～城下橋まで、約 14km 歩きました

新河岸川の源流を訪ねて、今回は雨で中止になった「新狭山～城下橋」までを歩きました。

本川越駅に集合し、西武新宿線の新狭山駅から旧赤間川(正式名称:入間第二用水)に向かいます。本日の参加者 14 名。

武蔵野台地の崖線下に沿って流れる旧赤間川沿いを下流に向かって歩きます。このあたりは今日が田植えの最盛期。「新河岸川起点」碑の少し手



前で、カッコウの声を聞きながらひと休み。

これより下流が新河岸川。

赤間川公園から下流に下ると、埼玉県により「水辺再生工事」が行われた場所に着きました。木や蛇籠を使って護岸され、流れの中には飛び石が。飛び石が特に気に入りました。

NHK 連続テレビ小説「つばさ」のロケ地となった田谷堰。かつての赤間川はここから北に流れ伊佐沼につながっていたそうです。

田谷橋～城下橋間には舟着き場が設置され、桜の時期には花見の舟が出て大変賑わったそうです。

上流の入間第二用水区間は全域がコンクリートで3面護岸されていました。新河岸川区間にはいると、川岸に草があり少し川らしい景観が現れ始め、川に人が近づき楽しむことを想定した工事が施されていました。川と人との関係がよくわかる、新河岸川ぶらり散歩でした。 [毛利将範]

5/31
(月)

6/1
(火)

プールのヤゴ救出作戦

志木小学校・志木第二小学校でヤゴ救出

5月31日(月) 志木小学校(一年生約115名)
6月1日(火) 志木第二小学校(二年生約130名)

今年も学校プールの大掃除を前に、プールのヤゴを助け出す大作戦を実施しました。このヤゴを救い出してトンボにしてあげようというプログラムは当会の提案で志木市で始まってから12年目になります。

志木小学校では大プールの水を抜いてしまったため、こどもたち全員でヤゴ捕りを行うことが出来ず、私達で小プールのヤゴを捕え、各教室の水槽で飼うとともに、こどもたちにも3～5匹を分配し、家でも観察できるようにしました。

こどもたちには、ヤゴの紙芝居と寸劇、ヤゴの飼い方の話をしました。質問の時間には「ヤゴには歯があるのかとか」「ミミズを食べるのか」大いに盛り上がりました。

また、志木第二小学校では、紙芝居や飼い方



の説明の後、プールでヤゴの救出を行いました。

プールの底にたまった腐りかけた落ち葉やヘドロを網ですくうと

ヤゴが捕まります。最初はヤゴが掴めなかったこどもたちもいましたが、慣れるに従って手で掴めるようになりました。生き物にじかに触れる機会が少なくなったこどもたちには貴重な体験です。ヤゴも数多く捕れこどもたちは大喜びでした。

各自が持ち帰ったヤゴは6月中旬ごろにはトンボになりますが、何割ぐらいがトンボになれたでしょうか。 [山崎光久]

身近な川の一斉調査 2010

新河岸川水系身近な川の一斉調査 身近な水環境の全国一斉調査

◆09年6月6日(日) 9:00~12:30

◆主 催 : 新河岸川水系水環境連絡会
全国水環境マップ実行委員会
NPO 法人エコシティ志木

◆協力参加 : 志木市立宗岡中学校科学部

◆参加者 : 15名

新河岸川流域では毎年約 50 団体が 250 ヲ所の水を調査しています。大会としては 15 年目の調査になり、例年同様に宗岡中学校科学部と共に、市内 8 ヲ所の水を採取し、宗岡中学校理科室で測定しました。

採水地点は、志木が新河岸川と柳瀬川の合流点であることから、両河川の比較がしやすいように、合流点上流各 2 地点と下流 1 地点を選んでいきます。また、上水道原水である荒川秋が瀬取水堰、いろは親水公園こもれびのこみちの武蔵野台地湧水、宗岡の雨水排水路の一つの赤野毛排水路と、それぞれ特徴のある 3 地点を加えています。

■ 主な測定項目は以下の通りですが、この他に気温、

亜硝酸性窒素 (NO₂-N)、アンモニア性窒素 (NH₄-N) も測定しています。

- pH (水素イオン濃度) : 7 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性。
- EC (電気伝導度) : 水中の無機イオンの量。数値が高いと不純物が多いが、必ずしも不純物=汚れというわけではなく、海水や温泉水なども高い。
- COD (化学的酸素消費量) : 測定水に酸化剤を加え有機物を酸化する時に消費した酸素の量。数値が高いほど有機物による汚れが多い。似た指標に BOD (生物化学的酸素消費量) があるが、これは微生物により分解されやすい有機物量を表す。
- 透視度 : 透明なパイプに測定水を満たし上から覗き込み、中の十字指標を動かして見えるようになるまでの深さ。数人で測定し平均値を求める。

主要な測定結果は下表の通りで、概ね例年と似た傾向でした。(天田 眞)

■ 2010 年の主な測定結果と過去 5 年間 (2005~2009) の平均値

測定項目		水温 (℃)		pH		EC (μ S/cm)		COD (mgO/L)		透視度 (cm)	
		10 年	平均	10 年	平均	10 年	平均	10 年	平均	10 年	平均
柳 瀬 川	志木大橋	24.0	22.6	7.0	7.3	350	341.3	12	7.8	130 以上	98.4
	栄 橋	24.0		7.5		340		12		130 以上	
新河岸川 (上流)	袋 橋	20.0	19.4	7.0	7.1	310	267.5	4	3.8	41.5	24.8
	いろは橋	19.0		7.0		310		4		26.0	
新河岸川 (下流)	宮戸橋	21.0	20.6	8.0	7.2	340	307.5	8	5.2	50.0	42.2
荒 川	秋が瀬取水堰	23.0	20.0	7.5	7.7	200	176.0	4	2.0	53.8	52.8
こもれびのこみち湧水		16.0	17.1	6.5	6.6	210	229.4	2	0.8	111.2	119.0
赤野毛排水路 (宗岡二中前)		26.0	19.8	9.0	7.6	320	356.0	8 以上	5.6	73.2	42.4

※ 各測定項目の右欄に過去 5 年間の平均値を記入した。柳瀬川・新河岸川の合流点より上流の各 2 ヲ所は合わせた平均値とした。

■ 過去 5 年間の結果から見る水質の特徴

柳瀬川 【志木大橋・栄橋】	下水処理場の放流水が 6 割以上で、透視度は高いが、COD、EC が高く、見かけほど水質は良くない。下水処理水のため水温が高い。河床は砂礫。流量は多く、流速は早い。
新河岸川 (柳瀬川合流前) 【袋橋・いろは橋】	透視度は最低だが、COD、EC は柳瀬川より低く、見かけほど水質は悪くない。河床は砂泥。柳瀬川に比べ流量は少なく、流速は遅い。潮位変化の影響を受ける観潮河川。
新河岸川【宮戸橋】	概ね、合流前の新河岸川・柳瀬川の中間の数値を示す。
荒 川 【秋が瀬取水堰上流側】	EC は最低、COD も非常に低く水質は良いが、透視度はそれほど高くない。わずかにアルカリ性。東京都・埼玉県の上水道原水で利根川から導水された水が大半を占める。
こもれびのこみち湧水	透視度は高く、COD は最低で非常に水質が良い。EC がそれほど低くないこと、水温が低い (年間一定) こと、わずかに酸性気味なことは湧水の特徴。
赤野毛排水路	EC が最高で COD も高く水質は悪い。平均では分からないが年により数値のばらつきが多い。雨水、農業排水、雑排水等、様々な水が混ざっていると思われる。

※ 埼玉県による BOD 測定の過去 5 年間 (2004~2008) 平均は、栄橋 2.18、いろは橋 2.58 で、柳瀬川の方が良い結果になっている。

7/4
(日)

志木まると博物館化計画 惣囲堤と水塚の文化に学ぶ事業

内間木・田島地区(朝霞市)の水塚調査より

7月4日、「朝霞・内間木地区と田島地区」の水塚調査を行いました。今思うと、まだまだ夏本番前だったのですが、十分に暑い日差しの下、乾いた道を歩き回りました。朝霞市で荒川と新河岸川の間にあり、志木の宗岡地区と隣接しているのが内間木地区。その南側、新河岸川と黒目川の間が田島地区です。朝霞市の低地のほとんどを占める広い場所なのですが、3つの河川に囲まれていますから、古くから洪水に悩まされてきた場所です。その反面、川船による運送なども盛んだったようです。

この地区では、洪水対策として地元の家々では、宗岡地区などと違って、避難用の蔵だけを高くするのではなく、敷地全体に土を盛って高く積み上げ、その上に母屋や納屋、蔵を建てて被害を防いだとされています(朝霞市史・民俗編)。現在、特に内間木地区は工場用地化が進んで、母屋も蔵も改築されてあまり古い形では残っていません。

んが、1～2メートルほどの坂をあがって敷地に入る屋敷がかなりあり、こうした土盛りの名残が街の中に独特の景観として残されているのがよくわかります。

われわれの調査の翌日、ゲリラ豪雨があり、この内間木地区でも床上浸水の被害を出しました。昔と事情は違いますが、今でも水に悩まされる場所のようです。
[筑井信明]



7/18
(日)

こどもとおとなの自然塾 2010

「お魚と遊ぼう」

今年も「こどもとおとなの自然塾 2010」の第2回目の観察会として、柳瀬川で魚取り・観察をしました。(子ども 32 人、大人 1 人)。

比較的浅いところを選び、右岸(志木中学校土手)から左岸(水谷たんぼ側)へ、みんなで瀬渡りをするのですが、低学年の子はパンツも濡れ、大いにはしゃいでいました。

草の茂った水辺を手網でガサガサし、ウキゴリ、ヌマチチブ、マハゼなどの低層魚、オイカワ、モツゴ、フナなどの浮遊魚、羽黒トンボのヤゴなどが捕れました。この魚とりの企画は、新河岸川水系水環境連絡会(黒目川、落合川、東川など)の10か所以上でリレーし実施する川祭りの一つで、ライフジャケットは連絡会からお借りしています。
[小島敏文]



7/31
(土)

三芳町「竹の子エコクラブ」

「柳瀬川へ行こう」

「竹の子エコクラブ」は三芳町の竹間沢公民館の事業で、小学生及びサポーター(大人)が1年を通し様々な自然を観察しています。「柳瀬川へ行こう」は、エコシティ志木が協力し、水生生物調査や魚取りを行うものです。例年は、志木大橋で実施していましたが、昨年の川底の土砂掘削もあり、今年は志木中学校裏で行いました。毎年参加する子が多く、説明するまでもなく魚の種類を言い当てしまう玄人達ですが、気を抜くと流されてしまいそうな瀬渡りは、「キャー」とかお楽しみのようなものでした。

[小島敏文]

「お魚と遊ぼう」で

6月～
9月

大型外来植物駆除作戦

アレチウリとオオブタクサの駆除作戦

私達が駆除の対象としている大型外来植物は、特定外来生物「アレチウリ」と要注意外来生物「オオブタクサ」の二種類です。これらの外来植物は繁殖力が強く、オオブタクサは成長すると3～4メートルにもなり、アレチウリは広く一面を覆い、これらの植物の下は日が当たらなくなり、他の植物は枯れて育たなくなります。

今年の大型外来植物駆除作戦は三つの柱で行っています。

一つ目は柳瀬川の志木大橋から高橋の先までを、6月から9月までの第三日曜日の午後4時から6時まで行うものです。6・7月は東上線の柳瀬川鉄橋を境に二班に分れて駆除を行いました。8月は富士見橋の下流側の右岸土手の斜面にオオブタクサの群落が見られたのでそこを中心に抜き取りを行いました。

二つ目は志木中学校の生徒さん達によるボランティア活動です。夏休み前の7月15日（木）午後2時から3時半の間に、志木中学校の生徒さん約150名の参加を得て、柳瀬川鉄橋と富士見橋の間でアレチウリとオオブタクサの抜き取りを行いました。この活動は1998年に始めて今年で13回目を迎えましたが、校長先生にも参加いただき、

また終了時にはPTAの方々のお手伝いを頂いて、参加した生徒さんたちに冷たい飲み物を提供しました。

三つ目は志木市市制施行40周年の記念事業によるものですが、この内容については下記をご覧ください。

オオブタクサは風媒花のため昆虫も寄らず、8月から9月にかけて大量の花粉を飛ばし、秋の花粉症の原因となっています。またアレチウリも柳瀬川に急速に繁茂し、在来植物の生存を脅かしています。これらの駆除は何年も継続して行うことと、大勢の方の参加が欠かせません。少しでも皆様のご協力が頂ければと願っております。

〔山崎光久〕



志木中学校の生徒さんたちによる作業の様子

8/7
(土)

志木市市制施行40周年記念事業

「水辺のお助け隊（外来種駆除作戦）」

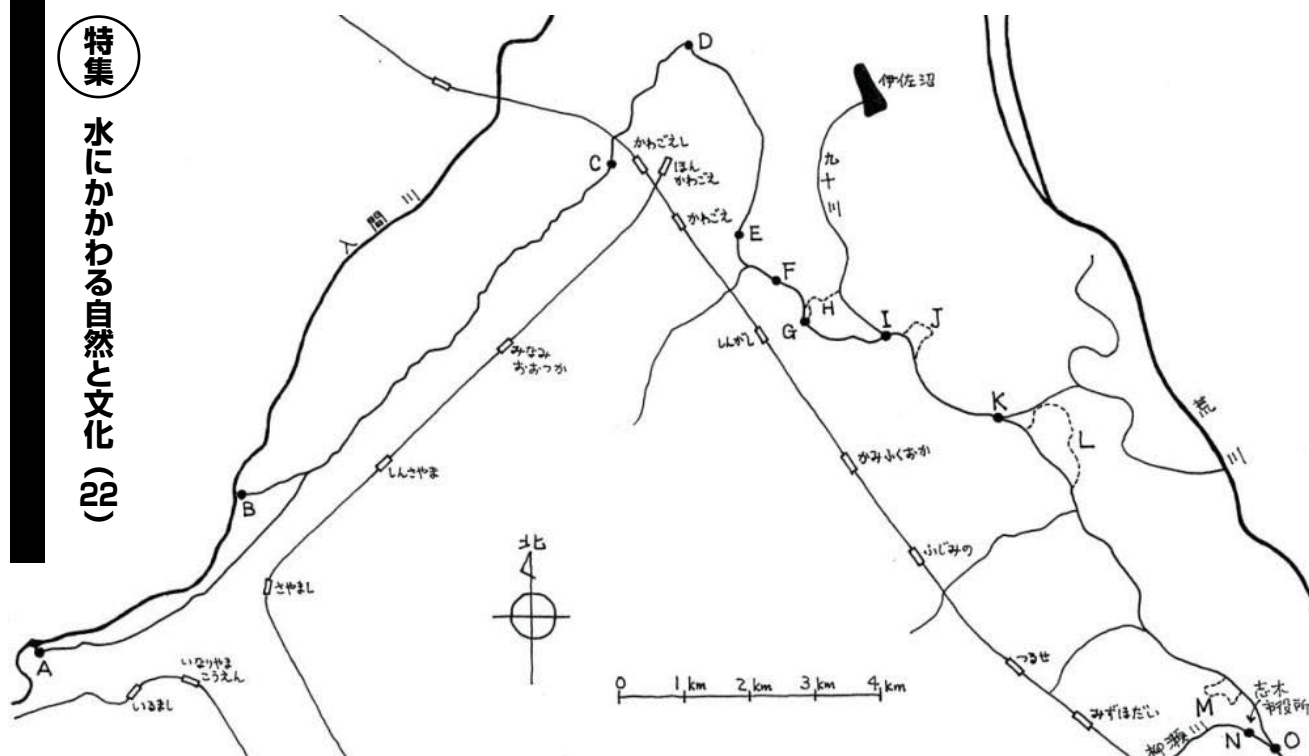
真夏の8月7日（土）、新河岸川・いろは橋周辺の両岸で、午前9時から、志木高校・細田学園高校・市内小中学校の生徒さん・保護者・市民・市制施行40周年記念事業市民実行委員などの皆さん総勢約120名の参加で「水辺のお助け隊（外来種駆除作戦）」が行われました。

協力団体である当会の天田代表から、在来種と外来種についてや駆除対象のオオブタクサとアレチウリの説明から始まり、暑い中での作業でしたので10時には作業をやめ、その後、当会と埼玉県生態系保護協会志木市部の協力で作製された外来植物のパフレット「新河岸川と

柳瀬川にはびこる外来植物」を配布し、天田代表から内容説明があり、10時30分に無事終了しました。

今回の事業は、市制施行40周年記念事業の一つとして行い、市内の環境悪化の一因が水辺にはびこる外来種であるということを市民の皆さんに知って頂く良い機会となりました。たくさんのご参加頂き誠にありがとうございました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

（志木市市制施行40周年記念事業市民実行委員会担当責任者：山口美智江）



新河岸川流路の変遷 ～志木より上流部～

NPO 法人エコシティ志木代表理事 天田 眞

新河岸川やその上流部の旧赤間川は、地域の人々の生活と密接にかかわり、その流路や水源は時代とともに変化してきました。江戸時代の舟運が始まった頃から現在までの新河岸川と赤間川の流路や水源の変遷をまとめました。

A：入間川笹井堰 ～C：新河岸川起点	旧赤間川 現入間第二用水	江戸時代からある灌漑用水路で、入間川から A 地点で取水されている。B：上奥富用水堰からも取水しており、この水路の現在名は上奥富用水。
C：新河岸川起点 ～D：田谷堰	旧赤間川 現新河岸川	C から下流は一級河川の新河岸川で埼玉県が管理している。赤間川は D から下流は伊佐沼に流れていた
D：田谷堰		D-E 間の開削に伴い水が足りなくなった旧赤間川方面の灌漑用水取水のため 1938（昭和 13）年に設置
D：田谷堰 ～E：仙波河岸跡		1934（昭和 9）年に開削された新川で、当時は赤間川又は新赤間川と呼ばれた
E：仙波河岸跡 ～F：扇河岸跡		1869（明治 2）年の仙波河岸開設に伴い開削（既存の小水路を拡幅延長か）
F：扇河岸跡 ～G：上・下新河岸跡		1683（天和 3）年の扇河岸開設に伴い開削（既存の小水路を拡幅延長か）
H：九十川旧河川	旧九十川 現牛子用水	舟運が始まった頃の新河岸川は伊佐沼からの九十川の水が主な水源で、G 地点（旭橋付近）で新河岸川に繋がっていた。現九十川は I 地点で合流している

J・L：新河岸川旧河川	1930（昭和 5）年の改修工事で直線化され、切り離された蛇行部分が農地の中に残っている
K：渋井水門	洪水時に新河岸川の水を新河岸川放水路・びん沼川（荒川旧流路）を經由して荒川へ放流する水門
M：新河岸川旧河川	富士見・志木境界には旧河川が残り、柳瀬川に面した水谷田んぼ等の水が新河岸川に排水されている
N：栄橋右岸たもと ～O：柳瀬川新河岸川現合流点	柳瀬川との旧合流点は栄橋右岸たもとであり、N－O間の現柳瀬川は旧新河岸川に当る

		
入間川笹井堰 (A)	旧赤間川 (A－C 間)	新河岸川起点 (C) 手前が下流
		
旧赤間川 (C－D 間)	田谷堰 (D)	昭和の開削区間(D－E 間)
		
仙波河岸跡 (E)	扇河岸跡 (F)	九十川旧河川 (H)
		
養老橋上流の旧河川 (J)	前河岸付近の旧河川 (M)	柳瀬川との旧合流点 (N)

金子秀樹の 農業日記 <7>

暑い日が続いています。7月から連日晴れが続いていますので稲作は順調なのですが、野菜物は暑さと水不足で生育がよくありません。我が家の野菜苗は、何本か枯れてしまいました。たまには、雨が欲しいところです。

さて、前回、我が家の田んぼのカルガモ被害について、書きました。その後、カルガモの1～2つがい河川敷で巣を作ったようで、6月になると水路や田んぼに子カモを連れたカルガモ一家を目にしました。6月に入れば苗もしっかりします。そうなれば、田んぼにカルガモが入っても苗に影響は無くなります。かえってカルガモが入る事で草が生えにくくなりますので、除草作業が軽減されるので助かります。

カルガモも、この時期から田んぼに入ってくるとうれしいのですが、こればかりは思うようには行きません。

この頃の田んぼ周辺には、カルガモ、サギ類、雉等が見られ、葦にはオオヨシキリの声が聞こえます。また、夜の田んぼにはゴイサギなどが見られます。

先日、夜の9時頃、田んぼの見回りをしていて、突然、目の前からサギが飛び立ち、びっくりして車が田んぼに落ちそうになりました。

河川敷の農道は、道が狭く、カーブが多いので注意して走っているのですが、このときばかりは、慌ててしまいました。

さて、宗岡の河川敷には、写真のようなポンプ小屋が3箇所あり、水を荒川からくみ上げ、水路を経て田んぼに供給されています。我が家の田んぼは、2箇所のポンプ小屋から水を得ています。しかし、水路には、何箇所かの分岐がありますし、ポンプ小屋に近い田んぼが水を入ると水路の水が減り、2～3時間で水が入る田んぼも一晩かかることがあります。

その為、我が家では、夕方田んぼに水を入れ、翌朝の5～6時頃に水を止めるようにしています。でも、この時間帯に田んぼの見回り・草刈等の人を見かけることもありますので農家の人にとって



稲刈り

は、普通の時間のようです。(私にとっては、特別な時間帯ですが)

今年は、7月から晴れの日が続き、また、このあたりでは大きく天気が崩れることが無かったので、稲の生育が順調で、今年の稲刈りは、例年より一週間程度早い8月19日から始まりました。我が家の稲刈りは、8月28日から行う予定です。

もうすぐ、新米が食べられます。



排水路とポンプ



ポンプ小屋



分水路

《鳥類》

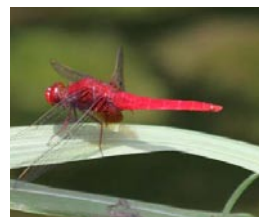
モズ(幼鳥3)→7月7日(日)水谷たんぼで[山崎光久]
オオヨシキリ(幼鳥3)→7月9日(日)水谷たんぼで[山崎]
カワラヒワ(幼鳥3)→7月16日(金)志木市役所前で[山崎]
イカルチドリ(幼鳥4以上)→7月16日(金)ワイス跡地前で[山崎]

《昆虫》

ショウジョウトンボ(1)→6月25日(金)いろは親水公園で[山崎]
ナガサキアゲハ(1)→6月25日(金)西原第三公園で。7月23日(金)志木二小の校内プールそばで。8月18日(水)市役所前のいろは橋たもとで[天田眞]
(西原第三公園及び東の森壺番街でのセミの初鳴き情報[天田・山崎])
ヒグラシ→7月10日 アブラゼミ→7月15日 ミンミンゼミ→7月16日
クマゼミ→8月12日(志木では初) ツクツクボウシ→8月14日

《魚類》

ウナギ・ナマズ→6月20日(日)柳瀬川ウオッチングで[伊藤智明]
コクチバス(1)→7月3日(土)柳瀬川で。コクチバス(55mm)とオオクチバス(40mm)を各1匹捕獲しました。コクチバスは初めてかと思います[天田眞]
《両生類》
トウキョウダルマガエル・アマガエル→6月20日(日)柳瀬川ウオッチングで[山崎・毛利]
ウシガエル(オタマジャクシ1)→7月18日(日)志木中学校前の柳瀬川。「お魚と遊ぼう」で[伊藤]



ショウジョウトンボ(6/25)[山崎]



ナガサキアゲハ(7/23)[天田]



コクチバス(7/3)[天田]

環境 ひとくちメモ (17) 伊藤 智明

「湧水保全・復活ガイドライン」

湧水は、地域の生活や文化、生態系と深い関わりを持っていて、身近な水源や生活、やすらぎの場として親しまれてきましたが、都市化の進展や産業構造の変化等の影響により、地下水位の低下や水質の悪化が問題となっています。

そこで、環境省では、自治体やNPO等による湧水の保全・復活に係る取組を促進させることを目的に、湧水の基礎知識、現状把握の方法、湧水保全に関連する制度・条例に関する情報や、保全・復活対策等について、全国の具体的な取組事例を交えながらわかりやすく紹介した、「湧水保全・復活ガイドライン」を取りまとめて公表しています。ガイドライ

ンの事例には狭山丘陵の湧水なども載っています。詳細は以下のホームページをご覧ください。

志木市にも崖線沿いに保全・復活した湧水が残っていますので、これからも大切にしていきたいですね。



(詳細) 環境省 報道発表資料 平成 22 年 6 月 14 日
「湧水保全・復活ガイドラインの公表について」
<http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=12601>

☆会員状況

2010 年度更新済み会員 (8/25 現在)

個人正会員 49

(内新入会 1)

団体正会員 2

賛助会員 3

★本会の財政基盤は、会員の方の年会費が頼りです。

★今年度も継続更新をよろしくお願いいたします。

★宛名シールに会費の有効期間が書いてありますので、チェックしてください。



■当会の団体正会員

志木おやこ劇場

生活クラブ生協志木支部

■当会の団体賛助会員

慶應義塾志木高等学校

志木柳瀬川ロータリークラブ

■当会が参加している、または主な協力団体

志木おやこ劇場

いろは遊学館利用者の会

志木市コミュニティ協議会

柳瀬川流域ネットワーク

新河岸川水系水環境連絡会

新河岸川広域景観づくり連絡会

埼玉県南西部地域NPO連絡会

(財) 埼玉県生態系保護協会志木支部

市内小中学校

志木市立教育サポートセンター

志木のまち案内人の会

グループぼんぼこ

新河岸川流域川づくり連絡会

情報満載！
当会のホームページ

公式ホームページ

<http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

志木まると博物館「河童のつづら」

<http://kappa-no.net/>

ニュース

当会が、環境大臣より
「地域環境美化功績者」
として表彰されました

埼玉県温暖化対策課の推薦で、国の審査の結果、5月末当会に環境大臣賞「地域環境美化功績者」をいただけるという喜ばしい知らせがありましたので、ご報告致します。

6月7日(月)に表彰式がありました。天田代表は急用で出席できず、私一人でグランドマーク半蔵門の会場に行ってきました。環境大臣は、総理大臣交代のためお見えになりませんでした。

埼玉県からは、財団法人トトロのふるさと財団が地域環境保全功労者、当会とNPO法人自然観察さいたまフレンドが地域環境美化功績者として表彰されました。表彰式の後には部門別に記念撮影、その後、懇親会。志木市で何度か講演して頂いたことがある北野大さん(環境保全功労者表彰)をお見かけし、その周りには人だかりがありましたが、すぐに姿が見えなくなりました。表彰された中に、環境に取り組んでいる小学校が多いことが感じられました。

会員の皆さんの地道な活動が認められた今回の表彰。今後も地域の環境保全のために息の長い活動が続けていきたいと思えます。会員の皆さん、引き続き積極的な参加をどうぞよろしくお願い申し上げます。

(山口美智江)

志木で夏によく見られるシャチホコガ科の毛虫を2種紹介します。この仲間は幼虫が何かに反応すると体を反り返しシャチホコのような姿をするのでこの名が付いています。

志木ニュータウンは武蔵野の雑木林の雰囲気再現しようとの計画意図からコナラやクヌギが多く植えられていますが、こうした木に7～8月に群がって発生する毛虫が**ツマキシヤチホコ**。年1回の発生で、若齢は暗褐色、後に橙褐色と黒色のすじ模様のある体に白く長い毛が沢山生え、5cm位まで成長すると木を下り土の中で蛹になり越冬します。成虫はまるでコナラやクヌギの枯れ枝の切れ端のような姿に擬態しています。

8月下旬～10月上旬にサクラに発生するのが**モンクロシヤチホコ**。ツマキシヤチホコと同

様に年1回発生、5cm位まで成長し土の中で蛹になり越冬します。若齢では暗赤褐色で後に紫黒色になり、白または黄色の毛が生えています。サクラにつく毛虫類は多種ありますが、9月頃に群がっているのは大抵は本種で、時には木を丸坊主にすることもあります。

これら2種とも毒は全くありませんから触っても大丈夫です。

さて、この連載の第1回で志木で見られるアゲハ6種類を紹介しましたが、今年は新たに**ナガサキアゲハ**をたびたび目撃しました。本種は体色の地が黒色ですが、クロアゲハなど他の黒いアゲハと比べると、後ろ翅に尾が無いのが特徴です。もともと暖かい地域の種ですが、温暖化に伴い生育地域を関東地方まで広げてきています。



孵化直後のツマキシヤチホコ



コナラにつくツマキシヤチホコ



やわらかく長い毛が特徴



枯れ枝に擬態した成虫



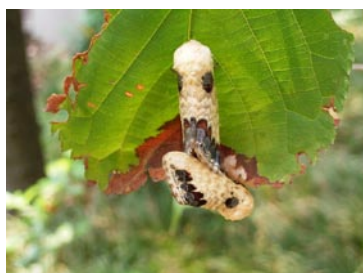
孵化直後のモンクロシヤチホコ



サクラにつくモンクロシヤチホコ



両種とも触っても大丈夫



交尾中のモンクロシヤチホコ



ナガサキアゲハ（雌）

キジバト

志木で記録されているハトの仲間は、キジバト、シラコバト、ドバトの3種類です。しかし、その内の埼玉県鳥であり、県のマスコット「コバトン」のモデルとなっている**シラコバト**は、市内ではここ数年目撃していません。

ハトというと、マンションのベランダに勝手に住み着いたり、橋の下や境内などで群れをつくっている光景が思い浮かびますが、これは**ドバト**と言って、もともとヨーロッパでカワラバトをもとに愛玩用や食用などとして人工的に作られた品種です。日本でもかつては通信用やレース用として愛玩されていました。それらが逃げ出し野生化したのがドバトです。羽色は個体により様々ですが、おもに白とグレーや黒っぽいものが多いです。木の枝を数本集めただけの粗末な巣をベランダや橋桁などの建築物の隙間につくり年に何回も繁殖します。

一時、ハトなどにエサを与えることが美談にされ、大きな公園などではハト用のエサが売られ、微笑ましい光景の代表として子どもがハトにエサをやる写真が広報用のパンフレットなどに掲載されることがありました。

今では、その数が増えすぎ、生態系のバランスが崩れたり糞の害などにより人間にも深刻な害が及ぶようになり、エサやりは禁止されています。

...



キジバトは、全体的に紫色味があるグレーで、羽色は黒褐色にオレンジ味の縁取りがあり、キジのメスの羽色に似ています。また、よく見ると頸の横に黒と青灰色のうろこ状の斑があり、キジバトの特徴となっています。

おもに春から夏にかけて、街路樹などの中低木に木の枝を荒く組んだだけの粗末な巣をつくり繁殖します。繁殖期にはゆっくりしたのどかな声で「デデポォポォー、デデポォポォー・・・」と繰り返して鳴きます。ドバトでも見られますが、オスがメスの後を追いつつ「クークッ、クークッ・・・」とお辞儀を繰り返し求愛する姿は、「僕のお嫁さんになってください」と懇願するようでユーモラスでもあります。また、注意深く観察していると、少し高く舞い上がって、両翼を水平に保ち滑翔して降りるディスプレイ飛行も見ることができます。

キジバトもドバト同様、人をほとんど恐れない都会っ子野鳥ですが、私が子ども時代を過ごした田舎では、人の姿を見るとすぐに逃げる鳥でした。あの「デデポォポォー・・・」も朝靄にけむる森の奥で響く神秘的な印象があります。すっかり都会になじんだキジバトですが、私が好きな野鳥の一つでもあります。

◇今年の夏は文字通り「猛暑」で、我が家では来月の電気代が心配です。扇子と簾で涼しさを演出したり、外出は徒歩と、ささやかなエコをエアコンが大きく凌駕する、社会の縮図が我が家にあります。

◇広報部会では、当会のホームページなども見直しを進めています。皆さんのご意見をお寄せください。(ふくろう)

エコシティ志木通信

第59号 2010年9月1日

〈発行〉

NPO法人 エコシティ志木

〒353-0006 埼玉県志木市館 1-1-2-108

電話/FAX 048-471-1338 (天田眞)

URL <http://www.cc.e-mansion.com/~eco/>

E-mail eco-shiki@ff.e-mansion.com